

陳情第134号

令和7年11月20日

川崎市議会議長 原 典 之 様

麻生区

柿生学園入所者家族会有志
代表

ほか 141名

「議案第104号 柿生学園の指定管理者の指定について」に関し、
入所者の安穏な生活が確保された形で事業者の引継ぎが行われ
るよう求める陳情

陳情の趣旨

市議会において令和7年6月に可決された「議案第104号 柿生学園の指定管理者の指定について」により、長年入所者を支えてきた川崎市社会福祉事業団から、新たにハートフル記念会へと指定管理者が変更されることとなりました。私たち入所者家族は、この決定を大変不安な気持ちで受け止めています。入所している家族が、これまでと同じように安心して穏やかに暮らし続けられることを、何よりも願っております。引継ぎの過程が丁寧に進められ、心身の安全が守られるよう、市議会におかれましてもぜひ御注視くださいますようお願い申し上げます。

陳情の理由

私たちは、現指定管理者である川崎市社会福祉事業団による管理継続を強く希望してまいりました。公募の方針が突然示された際には、急遽50名分の署名を添えた請願を市障害者施設指導課に提出し、その後も市議会へ陳情（第116号）を提出いたしました。しかし、令和7年6月13日の健康福祉委員会では私たち家族の思いが十分に反映されないまま陳情は不採択となり、本会議でも議

案第104号は賛成多数で可決されました。この結果を受け止めつつも、入所者の生活の安定を最優先に考えていただきたいと切に願っております。

令和8年4月から新たに指定管理者となるハートフル記念会は、重度知的障害者の入所施設を運営した経験がないと聞いております。家族として最も心配しているのは、支援者の質と数が十分に確保されるのかという点です。現在の事業団では、経験豊富な職員が72名（常勤・非常勤）が日々の支援にあたり、入所者の安全と安寧が守られています。一方で、令和7年10月4日時点の説明会で明らかになったハートフル記念会の支援体制は、確保済みが18名、そのうち5名は未資格・未経験者であり、今後研修を経て支援にあたるとの説明でした。説明会では資料も十分でなく、誠意を欠く対応も見られ、家族の不安はむしろ増しております。また、現職員に対する転職勧誘や家族への協力要請まで行われているとの報告もあり、混乱が深まっております。

私たちの家族の多くは強度行動障害を抱え、環境の変化に非常に敏感です。支援者が変わることで混乱し、自傷や他害、拒食・異食などの行動が生じることがあります。こうした状態が続ければ本人にも支援者にも危険が及び、離職者が増えてさらに人手不足が深刻化するおそれがあります。知的障害者福祉に携わる方なら誰もが予測できる事態です。

さらに追い打ちをかけるように、令和7年10月14日付けで、ハートフル記念会理事長名による「正式回答書」が家族会に提出されました。形式上は礼を尽くした文書ではありますが、その内容には以下のような高圧的な姿勢が見られ、家族の不安を一層深めるものとなっています。

- 1 家族会の議論を「感情的」であったかも秩序を欠くものと示し、会合運営に干渉する記述がある。
- 2 「報道関係者の呼び込み」「SNS発信」等を禁止的に言及し、情報発信を制限する表現が見られる。
- 3 「委任状がない場合は発言できない」「守秘義務に抵触する」といった誤った法解釈を示し、家族会の正当な意見表明を抑制する内容となっている。

これらの文言は、家族会を支援のパートナーとしてではなく、管理の対象として扱う姿勢を強く印象づけるものであり、共に入所者を支えるべき立場として看過できません。入所者本人や家族が日々抱える不安や苦労に寄り添う姿勢

は、残念ながらこの回答書からは感じ取ることができません。このような対応の下で、果たして円滑で信頼に基づく事業引継ぎが行えるのか、私たちは深刻な危機感を抱いております。

陳情項目

上記の状況を踏まえ、市議会におかれましては、以下の点について特段の御配慮と御対応をお願い申し上げます。

- 1 ハートフル記念会への指定管理移行に関して、引継ぎ過程の実態調査及び現場ヒアリングを行ってください。
- 2 家族会と法人との協議において、第三者的立場からの調整・監視の仕組みを設けてください。
- 3 入所者の安全・生活の安定を最優先とする観点から、議会としての定期的なフォローアップ体制を確立してください。
- 4 今回の「正式回答書」に見られるような高圧的・統制的対応が再び起きぬよう、市として法人に対する適切な助言・指導をお願いいたします。

私たち家族は対立を望んでおりません。ただひたすらに、入所している家族がこれまでと変わらぬ環境で、安心して穏やかに生活を続けられることを願っています。どうか議会の皆様におかれましては、現場の実態調査を行ってください。そして現場の声に真摯に耳を傾け、行政と法人の狭間で苦しむ家族に救いの手を差し伸べてくださいますよう、心よりお願い申し上げます。